

富士山

現在の富士山は4つの大きな火山が重なってできている。

- ①数十万年前、現在の富士山の位置で爆発が起こり、先小御岳火山が誕生した。
- ②10万年前以降の噴火により、前山を覆うように、小御岳火山が誕生した。
- ③その後、数万年前の爆発により、「古富士火山」ができた。この火山は急激に成長し、標高が3000メートルに達した。この時吹き上げられた火山灰は、関東平野に積り、関東ローム層となったと言われている。
- ④およそ1万年からは新富士火山が活動し、いくつかの噴火を繰り返した。865年には貞観噴火が起こり、富士五湖ができた。青木ヶ原樹海は、この時の溶岩流の上に1000年を掛けて形成された樹林である。

富士山宝永火山

宝永山は宝永4年(1707年)の宝永大噴火で誕生した標高は2,693m。その日のうちに江戸にも多量の降灰があり、房総半島まで被害が及んだ。2週間にわたって断続的に噴火し、家屋や農地が埋まった麓の村では餓死者多数。噴火は12月31日未明まで16日間断続的に続き、火山礫や火山灰は偏西風に乗って、静岡県北東部、神奈川県、東京都、さらに100km以上離れた房総半島にまで降り注いだ。この噴火の49日前に宝永地震が発生し、これによって誘発されたものと考えられている。この宝永の大噴火以降富士山は噴火していない。

「宝永噴火」がいま発生したら

今の時代に富士山が噴火したらどうなるのでしょうか。富士山火山防災協議会が、「宝永噴火」と同規模の噴火が現在発生した場合の被害想定を行っている。

【人的被害】噴石等の直撃で約1万3600人が死傷

【建物被害】木造家屋が約280~700戸倒壊

【道路】降灰により東京・神奈川・千葉・茨城・静岡の約3700km~1万4600kmに及ぶ道路が通行不能

【鉄道】車輪やレールの導電不良による障害や踏切障害等により、東京・神奈川・千葉・静岡等で線路延長は最大で約1800kmが混乱

【航空】大気中の火山灰により、羽田・成田など6空港で1日あたり515便、約21万9000人に影響

【農林業被害】降灰による商品価値の喪失・降灰付着による樹木の枯死・牧草地の枯死等で、稲作被害が約18万3000ha、畑作被害が約6万4000ha、森林の壊滅的被害が約700ha

【観光産業】降灰により東京・神奈川・千葉・静岡等で観光需要の減少

【その他の産業】交通障害や停電などで、東京・神奈川・千葉・茨城・静岡では産業活動が停滞

以上は降灰による被害想定ですが、そのほかにも洪水や土石流による建物被害や農作物被害が出る。合わせて被害総額は約1兆2000億円～約2兆5000億円と試算されている。

参考文献

富士山大噴火と阿蘇山大爆発 巽好幸 著 幻冬舎新書

<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00420/>